

SAKURA SCHOLARS NEWSLETTER

January 2018 | Vol. 1

日米間初 - 京都とワシントンD.C.をキャンパスに、 新しいグローバルリーダーを養成

INTERVIEW

立命館大学 国際関係学部長
君島 東彦

2018年4月、立命館大学国際関係学部は、学部単位では日本初のジョイント・ディグリー・プログラム（JDP）である「アメリカン大学・立命館大学国際連携学科」（以下、国際連携学科）を開設します。国際関係学部長の君島東彦教授に、その意義を聞きました。



君島 東彦(きみじま・あきひろ) 1982年早稲田大学法学部卒業、94年早稲田大学大学院法学研究科公法学専攻博士課程 後期課程単位取得退学。専門は、憲法学、平和学。日本平和学会会長。

日米二つの大学が共同して学生を育成

来年30周年を迎える国際関係学部は、これまで様々な留学制度を作り、学生を世界に送り出してきました。JDPは、その到達点の一つです。入試段階から両大学が協力し、学生は、立命館大学と同時にアメリカン大学にも入学することになります。入学後は、立命館大学で2年、アメリカン大学で2年学びます。両大学が共同で一つのカリキュラムを作ることから、学生の体系的な学びが実現できるのです。学生は、4年間を通じて「グローバル国際関係学」を学ぶことに専念できます。日米両国のクオリティを満たす教育と学生サポートが構築されており、JDPは留学の究極の形と言えると思います。学位の証書も両大学連名のもの1枚となります。

刺激的な授業と充実感に満ちた4年間

今、世界の枠組みは西洋中心からアジアへと大きく変わろうとしています。JDPで学ぶのは、そうした動きを踏まえ、欧米主導を超え、米国とアジアを結ぶ「グローバル国際関係学」です。授業は、国際社会のリアルを取り入れ、刺激的な内容になります。こうした時代、世界の政治の中心地であるワシントンD.C.と、アジアに位置する日本の古都・京都で学ぶことは、両面から世界を見るという点で非常に有意義です。ぜひ、街全体をキャンパスだと捉えて欲しいと思います。

国際関係学部は世界から多様な人材を受け入れています。ここで学ぶ4年間は、そうした学生たちと切磋琢磨する充実感に満ちた期間となるでしょう。そして、ためらうことなく世界に飛び込んで行く人や、異文化を尊重し、共存できる、そんなたくましい国際人を育成するために私たちも最大限の努力をしていきます。

PICK UP!

「立命館サクラ・オナーズ奨学金」設立決定!

Ritsumeikan Sakura Honors Tuition Stipend

アメリカン大学がキャンパスを構えるワシントンD.C.と京都(日本)との所縁である「桜」に因んで、国際連携 学科の学生は、「サクラ・スカラー (Sakura Scholars)」と呼ばれます。この度、立命館大学で学習を開始する学生 (RUホーム学生) を対象に、学外からの寄付金を原資とした新たな奨学金制度「立命館サクラ・オナーズ奨学金」を設立することが決まりました。



支給額および支給期間 年間150万円×アメリカン大学で学習する期間 (2年間 [4セメスター]) 計300万円
※セメスター毎に75万円ずつ分割支給する予定です。

奨学金の支給対象者 国際連携学科RUホーム学生の入学試験の成績最上位者 (年間最大3名)

※入学試験時の成績順に国際関係学部長が本奨学金の採用候補者を指名します。国際連携学科入学後、一定の成績・履修要件等を満たすことで、本奨学金への採用が決定します

本奨学金の採用候補者とならなかったRUホーム学生に対しては、申請により、一定の成績基準等を満たした場合、日本学生支援機構 (JASSO)「海外留学支援制度 (協定派遣)」(給付金額: 10万円程度 (見込額) /月) による奨学金、または「立命館大学 海外留学チャレンジ奨学金」(給付金額: 50万円/セメスター) による支給を、最大2年間受けることができます。なお、学外の給付型奨学金との併給については不可となる場合があります。

また、アメリカン大学は、RUホーム学生に対し、一定の成績基準を満たすことでアメリカン大学での授業料 (その他の諸経費を含まない) の30%相当額の奨学金を支給する予定です。

▶ 詳細は、こちらでご確認ください <http://www.ritsumei.ac.jp/ir/>

